

2009.10.1



白門技術士会

## ニュースレター vol.10

会員の皆様へ

このニュースレターは、会員相互の情報交換を目的に、会の活動内容とともに会員個人の様々な活動などについてお知らせするものです。

今回は、これからの白門技術士会の行事予定をお知らせするとともに、幹事の内藤堅一さんのエッセイをお届けします。内藤さんは、モンゴル乗馬ツアーに参加した体験やツアーを通して得られた豆情報などを楽しく書いてくださいました。

それでは、ニュースレターをお楽しみください。

### ◇白門技術士会行事予定◇

No.	行事	日程	内容
1	講演会：「バイオメトリックスの最前線」	2009年10月2日（金） 18:30～	◎場所：日本技術士会会議室 ◎講師：溝口正典氏
2	ホームカミングデー出店 「よろず相談コーナー」	2009年10月25日（日） 10:00～16:00	◎場所：中央大学多摩キャンパス ◎内容：技術士による相談所
3	理工学部白門祭	2009年11月1日（日） ～ 2009年11月3日（火）	◎場所：中央大学後楽園キャンパス
4	幹事会 18:30～	2009年11月13日（金） 18:30～	◎場所：学会会会議室（715 会議室） ◎内容：各行事の企画と反省会
5	CO2環境対策技術研究会 第5回研究会	2009年11月18日（水） 13:00～17:15	◎場所：日産自動車 追浜工場 ◎内容：見学会及び講演会

付記：各講演会共に、CPD「1.5単位」が付与されます。CO2環境対策技術研究会のCPDは単位数が異なります。

講演会参加費用：各1500円（CO2環境対策技術研究会の参加費等はHPをご覧ください）

講演会后、懇親会を予定しています。

## ◇エッセイ◇

「モンゴル乗馬ツアーに参加して 2009.7.27～31」：内藤 堅一（建設部門）

○モンゴル乗馬ツアーに参加し、簡単な旅行記を書きましたので投稿します。

### 1. はじめに

私は現在 66 歳と 3 ヶ月になるが、65 歳になる 3 ヶ月前に乗馬を始めた。約 1 年で 4 級のライセンスを取得したが、乗馬クラブの馬場から出たことがないので、一度広いところで思い切り駈歩（かけあし）をしてみたいと思っていた。たまたま、乗馬クラブの友人からモンゴルへの乗馬ツアーに誘われ、2 人で HIS のモンゴル乗馬ツアーに参加した。乗馬クラブの友人に申し込みを全部依頼したところ、2 人だけのツアーになるかもしれないということだったが、ウランバートルのチンギス・ハーン国際空港の出口での現地ガイドが出迎える場所に集合すると今回のツアーの参加者 7 人が集まった。

### 2. 乗馬ツアー参加者は乗馬経験なしの人達ばかり！

参加者 7 人の内訳は娘を含む親子 3 人と、一人で参加した若い女性と中年の女性 の 2 人と私たち 2 人で合計 7 人である。話を聞くと乗馬の経験者は私たち 2 人だけで、他は皆さん乗馬経験なしで乗馬ツアーに参加したという人達ばかりであった。現地ガイドは 3 人で、別に運転手付で 4 日間のガイドは配慮が至れり尽くせりで大満足であった。ただ、クラブではせいぜい 1 日 3 時間しか乗馬しないのに、1 日目が 4 時間、2 日目が 4 時間+3 時間、3 日目が 6 時間で相当ハードなツアーであった。ビギナーの人達も 1 日目が 4 時間、2 日目が 3 時間、3 日目が 6 時間で相当にきつかったと思う。



テレルジのハミルトゥリストキャンプ場  
4 人用のゲルに友人と 2 人で宿泊  
中は意外に広く快適に過ごせた



1 日目に訪問した遊牧民の大きなゲルの中  
3 人は現地ガイド右から 2 人は学生

### 3. ビギナーはどのように乗馬を覚えるのか

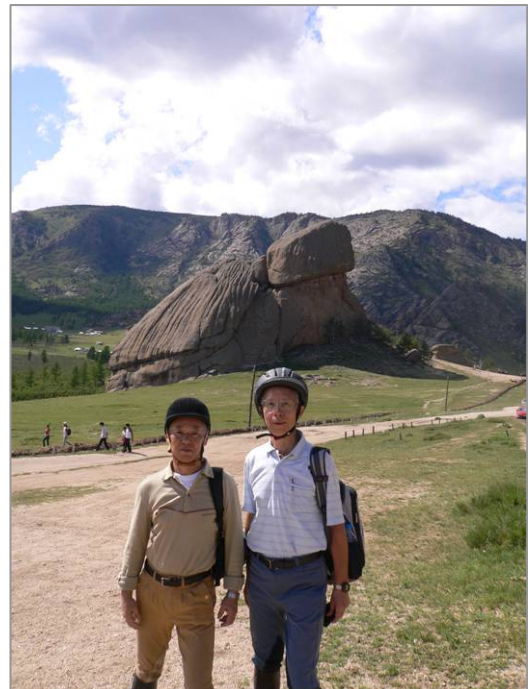
ビギナーの人達がどのように乗馬するのかを簡単に紹介しておく。最初は鞍（くら）の前に着いた金属の取っ手を持って騎乗する。馬は引き綱でガイドや馬主が引いていく。慣れると取っ手を放して手綱（たづな）を持って騎乗する。これでバランスが取れるようになると、引き綱なしで、一人で騎乗する。右折、左折、ストップの手綱の合図の仕方だけ教え、発進は声で「チュー」だけ教える。日本では足で合図をすることが基本だがモンゴルでは、声と鞭（むち）が基本のようだ。声で動かない時は、ガイドが馬の尻を鞭でたたいて発進させる。馬は1頭だけの時にはこれだけではコントロールできないが、1列に並んで行進する場合は、前の馬についていく習性があるので、最前部と最後部にコントロールできている馬がいれば、これで十分トレッキングが出来る。並歩（なみあし）、速歩（はやあし）、駈歩と速さを変えるが、ビギナーでも速歩まではすぐに覚える。モンゴル馬は背が低く、ゆれも少ないので乗りやすいためだと思うが、日本では考えられないスピードで乗馬が出来る。最後には駈歩が出来たと喜んでいる人もいた（勿論ほんの一瞬ですが）。

○ビギナー5人のうち、早い人は1時間のトレッキングの後、引き綱なしで騎乗できる人もいましたが、1人は最後まで引き綱のお世話になったという状況でした。冒険心の高い人達は習熟も早いものだと感心しました。乗馬経験のない人でも十分に参加できますよと、申し上げておきます。

### 4. 乗馬ツアーの概要

#### 1) 1日目

ビギナー組と一緒に体験乗馬に参加。キャンプ地から東に約5kmの地点にある亀石まで全工程を並歩で行進する(約1時間)。早い人はここでもう引き綱なしで乗れるようになる。ここから、遊牧民のお宅(ゲル)を訪問する(約1時間)。ゲルの中で、馬乳酒や馬乳を入れた紅茶やお菓子をご馳走になる。その後馬の乳を搾るところを見せて頂く。馬の乳は最初に子馬に乳を吸わせ、乳が出るようになると、子馬を引き離し母馬の馬体につけておき、母馬が、子馬が乳を飲んでいると思わせている間に人間が手で乳を搾りバケツに受ける。子馬はいつ乳を飲めるのかと心配だが詳しいことは聞いたが分からなかった。ここからキャンプ地まで帰る(約1時間)。



1日目のツアーで行った亀石の前で同行の田中さんと



休憩、見学を含めて約 4 時間のコースである。

夜は 11 時にキャンプ地の外灯を消すと満天の星空で天の川が本当に川のように見えるし、人工衛星も識別できる。流れ星も多い（モンゴル人には流れ星は不吉なものだそうだ）。

## 2) 2 日目

1 日目のトレッキングで我々の技量を見てもらい、2 日目はビギナー組と経験者組で分けて別メニューで実施してくれた。私たちは、キャンプ地の南側に聳える高い山の向こう側に行くという。私達 2 人にガイド 1 人と遊牧民の馬主 1 人の 2 人がついて 2 時間かけて山越えをして遊牧民の冬営地であるという盆地状の大草原に出て、ここで駈歩を存分にさせて貰った。私の乗った馬はモンゴルのナーダムという祭典に行われる競馬に出たという馬で足が速い上に一番前に出たがる。駈足では先導の馬主の馬を



2 日目のツアー、冬営地の草原で駈歩をした後、ツール川のほとりで休憩

追い越していく。実に爽快であった。帰りは同じ道を 2 時間かけて戻るといったコースで足腰がパンパンに張ってしまった。キャンプで昼食後に今度は北側の山の向こうに行くという。北側の山の向こうの草原で駈足をした後、仏教弾圧時代に僧侶が何百人も隠れ住んでいたという岩山まで行って、そこから行きとは別のルートでキャンプ地に戻った。約 3 時間のコースで、相当ハードなスケジュールである。

## 3) 3 日目

3 日目も別メニューにするかと言われたが、ビギナー組について行って広い草原では駈歩をしても良いという許可を貰って 6 時間のトレッキングに参加。

キャンプ地から、ランドクルーザーに乗って約 30 分、馬主の放牧地に向かう。奥テルルジと言っていたが、キャンプ地から約 15km 離れている。ここから馬主は毎日 10 頭の馬を引いて私たちのキャンプ地まで来て、夕方に連れ帰っていたという。大変な労働であると思った。私たちが乗る馬は毎日同じ馬なのだが、同じ馬を放牧地から集めるのに時間がかかったので、急遽コース変更になって馬主の放牧地出発のコースになった。これが返



3 日目のツアー、今回同行の 6 人。1 人は市内見学に行き乗馬不参加

って良かった。

放牧地からツール川の支流を 10 本ほど馬で渡り、大草原に出る(約 1 時間)。ここで駈足をさせて貰い、また同じコースを放牧地に戻る(約 1 時間)。馬主のゲルの中でキャンプ地から運ばれた弁当を食べる。馬乳酒等のサービスもあったが、今回はパス。

最後は馬主の放牧地からキャンプ地まで馬で帰るというコースである(約 2 時間半)。自動車の走る道路を行進したりしたので予想外に時間がかかり、民族舞踊を見るオプションを選択した女性 2 人は途中から一人ずつ、馬主の息子さんが運転するバイクでキャンプ地に送り届けられる。残った馬には別の息子が乗ると言う具合で馬主一家の大活躍だ。彼らはまたキャンプ地から放牧地まで馬を連れ帰るのだから恐れ入ってしまう。

## 5. アクシデント

私は 3 日目のビギナーとのトレッキングの川を渡った後の草原で、カッコ良いところを見せようとした訳ではないが、ビギナー組を後にして駈歩をして見事に落馬してしまうというアクシデントに見舞われてしまった。上手く落馬したようで、その時は全く痛みを感じなかったが、後で腰と肩に痛みが残ってしまった。

草原で下が柔らかかったのと、モンゴル馬の背が低かったことが幸いした。落馬も放り出されたのではなく、馬の首に左手をかけて、頭から回転して背中から落ち、しかもリュックサックを背負っていたので衝撃が少なかったのが大きな怪我をしなかった理由と考えられる。その時は、全く痛みもなく、すぐ乗馬してまた駈歩をしていたのが、放牧地からキャンプ地に戻る段階から肩と腰に痛みを感じた。

帰国してから、筋肉痛にしては腰の痛みがひどいので、整骨院に行くと鎖骨、背骨には骨折、ひび割れの心配は全くないのでレントゲン撮影は不要、左肩が馬を挟んだ時の衝撃で少し痛んでいるのと、腰に衝撃の痕があるので、電気マッサージを継続し、腰には湿布薬を貼るようにとの診断であった。

## 6. ツアーの終了

3 日間の乗馬が終わると、夕方キャンプ村を出て、ウランバートル市内の韓国レストランで夕食、その後ホテルのサウナ風呂に入れて貰って体を洗ってから、空港に送って貰って解散という真に細かい配慮をしてくれたツアーであった。飛行機は夜中の 0:20 に出発して、韓国乗継で翌日の 11:30 に成田空港に帰った。

ただ、私はモンゴル 2 日目から下痢をしてしまい、食事は半分程度にして我慢するしかなく、帰りの機内食は全てパスした。モンゴル料理の油が体に合わなかったのかも知れない。1 日目の食事からボリュームのある食事を例によって完食したのが胃腸の負担になったのかもしれない。

成田からはスーツケースの上げ下げに痛みを感じたので、タクシーで帰宅する。

帰宅してから、初めて安心して冷たいサイダーに沖縄のシーカーサーを入れたものを飲

み、夕食はおかゆに梅干、漬物で夕食後のお茶を頂いて下痢の心配もなくなった。腰の痛みがなくなれば、楽しかったツアーが思い出されることと思う。

〇次に私の得た豆知識をご披露しておきます。

## 7. モンゴル事情

モンゴルの面積は日本の4倍、人口は240万人。首都ウランバートルの人口は100万人だそうで、周辺は遊牧民の世界で人口密度は極めて低い。

私の行ったのはウランバートルとテレルジで、中央モンゴルに属する。

西モンゴルは山岳地帯で4,000m級の山と湖があり、かつてのモンゴル帝国の首都カラコルム（現在はハラホリン）も西モンゴルに属する。

北モンゴルはロシアに接しており、フスグル湖、ダルハン、スフバートル等の都市がある。

東モンゴルは中国に接し、最も東にあるスンベル村は1939年のノモンハン事件（モンゴル側ではハルハ川戦争）の跡地である。

南モンゴルはゴビ砂漠になっており、中国の内蒙古自治区に接している。

シベリア鉄道がウランバートルから北はロシア、南は中国に通じている。

テレルジからウランバートルを経て流れるツール川は北のロシアのバイカル湖に流れている。

## 8. テレルジ事情

テレルジはウランバートルから東北東50km、経路では約70kmの地点にあり、モンゴル人や外国人の保養地になっている。相撲の白鵬も7月26日（日）の名古屋場所で優勝した後、翌日の成田発の直行便でモンゴルに帰り、テレルジの高級ホテルに宿泊してゴルフをしていると聞いた。

気温は昼間の最高気温は27℃程度で、半そでシャツで丁度良い。晴れていると夜の放射冷却が激しいためか急に温度が下がる。星空を見るために戸外に出た時は長袖シャツにセーター、その上にジャンパーを着ても30分もしない内に寒くなる。夏でも1日の中に夏から冬がある感じだ。

夜は9時頃まで明るい。冬でも6時頃まで明るいという。

## 9. ツーリストキャンプ事情

ツーリストキャンプは設備が整っている。食堂と寝泊りはゲルの中だが、便所とシャワー室は別棟にあり、トイレは水洗、洗面所の水は井戸水で冷たい。シャワーは温度が低く、お湯の出が悪い。トイレはお尻を拭いた紙はトイレに流してはいけなく、ゴミ入れの中に捨て、排泄物だけを水洗で流す。パイプが細いのと水の量が少ないため、ウラ

ンバートルのホテルも同じであった。紙を流して良かったのは空港のトイレだけであった。

ゲルの中は、天井の明り取りから陽が入るので、結構明るい。今は電燈もついている。自家発電ではなく電線がキャンプ地まで来ているが、私が滞在中に 2 回停電した。中央に薪ストーブがあり、周囲にベッドが 4 つある。ここに 2 人で宿泊したので、ゆったりできた。

夜 10 時頃にストーブを点けに来る。ゲルの中は急に温度が上がり、暑いくらいになる。明け方 5 時頃にまたストーブを点けに来る。

キャンプ地内には外灯がついており、懐中電灯なしでも歩ける。1 日目に星を見る時には外灯を消すと、漆黒の闇で満天の星が輝いていた。

モンゴル人は、洗面所の水を飲んでいるが外国人は飲まない方がよいと言われた。毎日 HIS とキャンプ場からからミネラルウォーターが各 1 本、計 2 本支給された。成田へ行く電車の中で前の席で水筒から水を飲む人を見て、慌てて成田空港で 3,000 円の水筒を買ったがこれが全然役にたたなかった。

食事は紅茶が毎回出て、食事の最初から最後までで大体カップに 3 杯程飲む。最初にサラダとパンが出て、次に肉料理とご飯を丸い山（お子様ランチ程度で量は少ない）のようにして 1 皿に盛り付けて出てくる。味は良いが後半は油が少し気になった。

（編集：白門技術士会広報部会）